



SDGsとは何か？なにをすれば良いのか？ －いま求められること－

慶應義塾大学大学院教授
国連大学サステナビリティ高等研究所シニアリサーチフェロー
蟹江憲史

SDGsによる目標によるガバナンスは
グローバル・ガバナンスへの新戦略

2030年の
世界目標



17目標
169ターゲット
230指標
の三重構造



進捗状況のモニタリングと
評価（法的義務なし）

グローバルな性質ですべ
ての国に普遍的に適用

SDGsの特徴



長所とされることの多い点

- **包摂性**：「誰一人取り残されない」
- **普遍性**：先進国・途上国共に適用
- **多様性**：目標値は（世界全体の達成目標を視野に入れた上で）国レベルで設定可。指標は地域・国レベルで補完される。
- **統合性**：経済、社会及び環境の3つの次元が統合へ。
- **行動性**：具体的行動の実施へ。

批判の多い点

- 多すぎる目標（17 Goalsと169 Targets）
- 理解が容易ではない。
- 先進国における関心が低い。
- 法的拘束力がない。



SDGsの背景と特徴：3側面の統合

MDGsの残された課題の達成（経済）

目標と主なターゲット

<p>目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅</p> <ul style="list-style-type: none"> 1日1.25ドル未満で生活する人口の割合を半減させる 飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる 	<p>目標5: 妊産婦の健康の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 妊産婦の死亡率を4分の1に削減する
<p>目標2: 初等教育の完全普及の達成</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする 	<p>目標6: HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> HIV/エイズの蔓延を防止し、その後減少させる
<p>目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての教育レベルにおける男女格差を解消する 	<p>目標7: 環境の持続可能性確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全な飲料水と衛生施設を利用できない人口の割合を半減させる
<p>目標4: 乳幼児死亡率の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> 5歳未満児の死亡率を3分の1に削減する 	<p>目標8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 民間部門と協力し、情報・通信分野の新技術による利益が得られるようにする

×ロは「特定非営利活動法人はっけない 世界のますろ」が作成したもの。

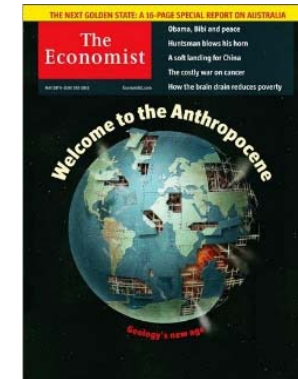
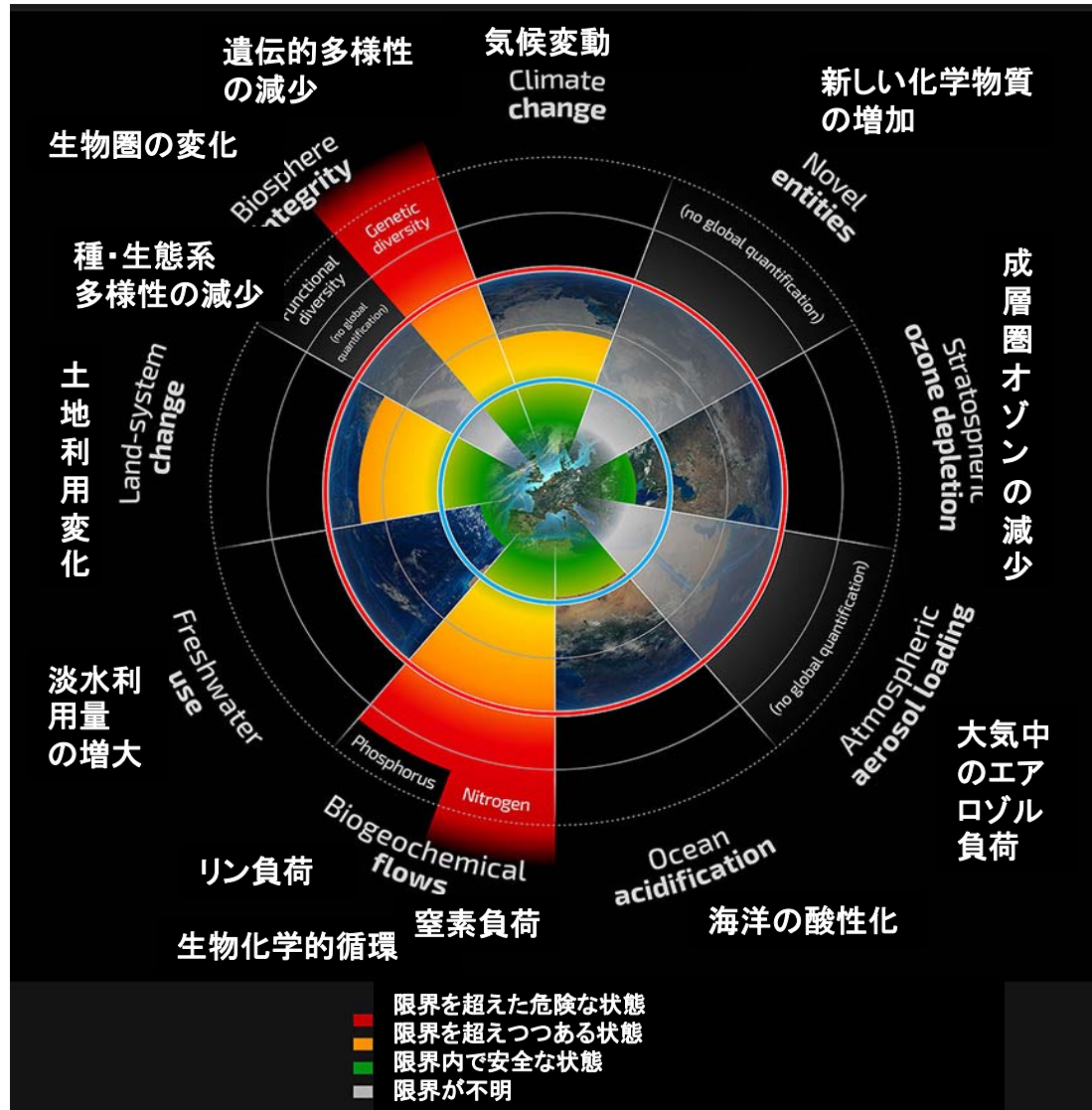
地球システムの容量からもたらされる課題（環境）



社会的な持続可能性（衡平性、公平性等）



前提条件としての地球システムの維持 Planetary Boundaries – 地球システムの境界

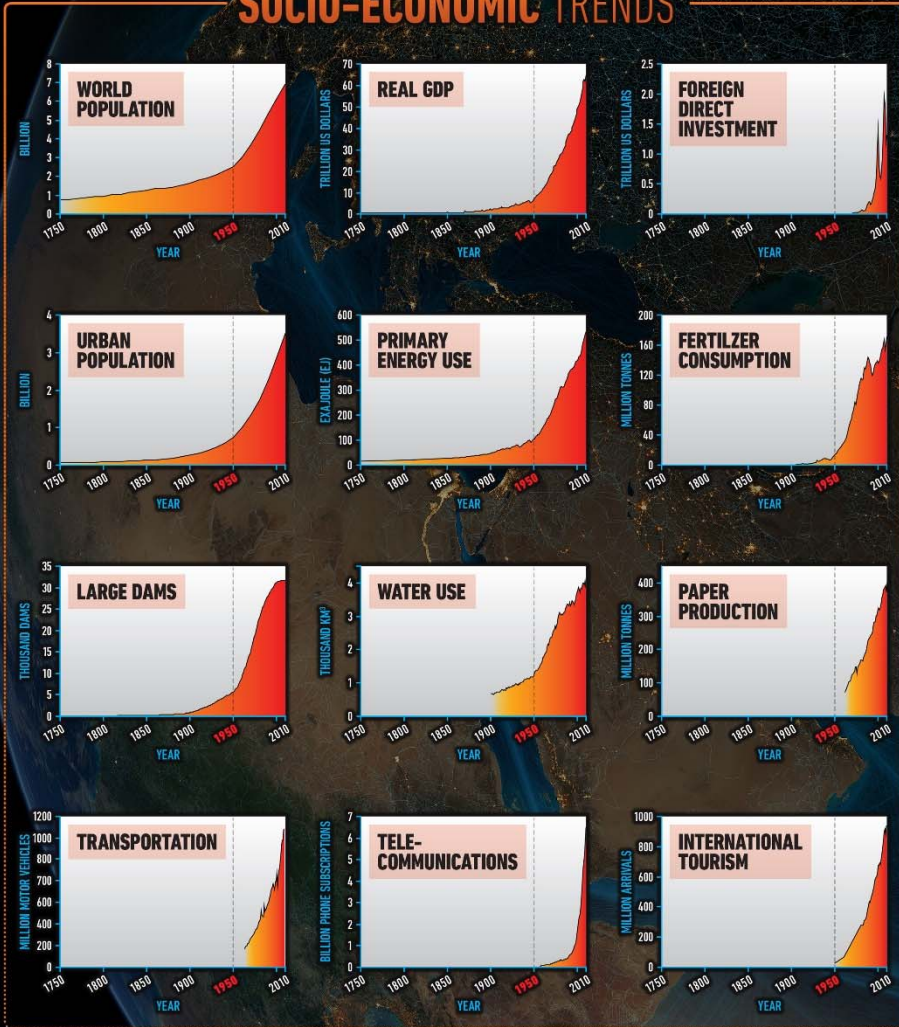


⇒ 環境問題の「質」の変化
 身近な環境問題から
 これにプラスして**地球変動**
 の課題へ
 Cf.「人類世
 (anthropocene)」
 (Crutzen 2002)

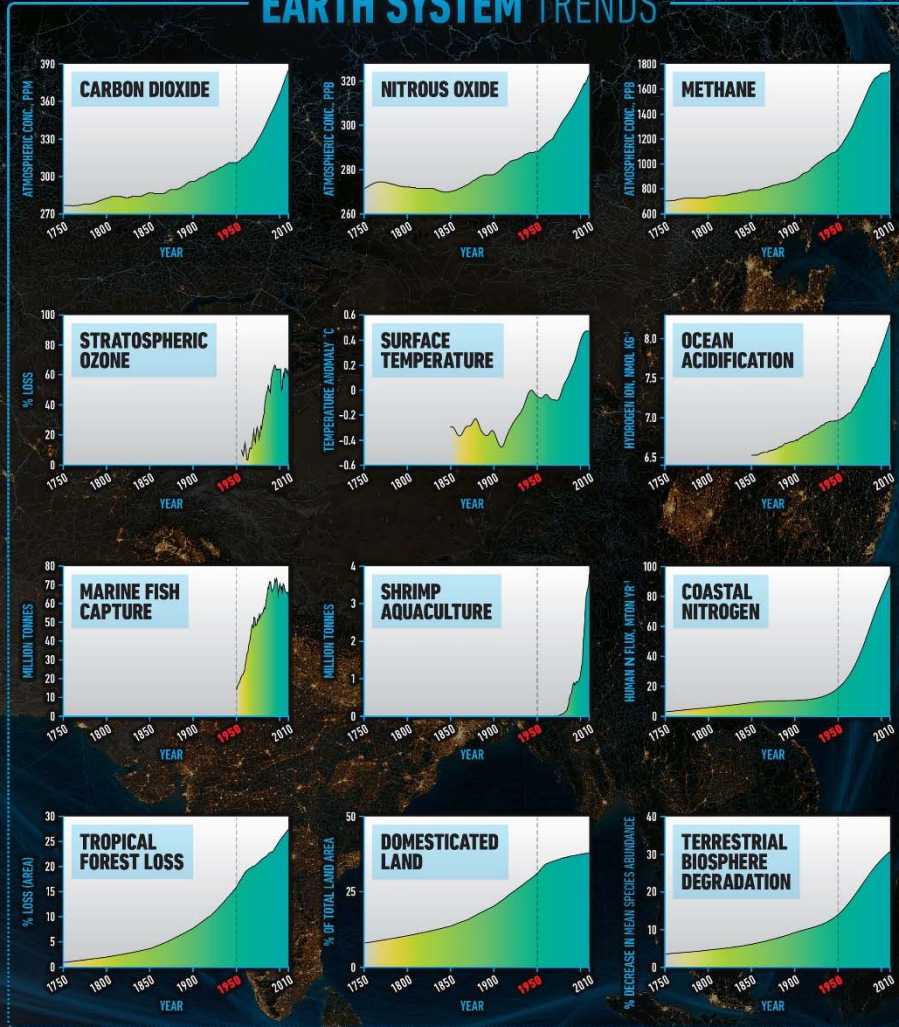
Steffenら、2015,
 Scienceより作成

THE GREAT ACCELERATION

SOCIO-ECONOMIC TRENDS



EARTH SYSTEM TRENDS

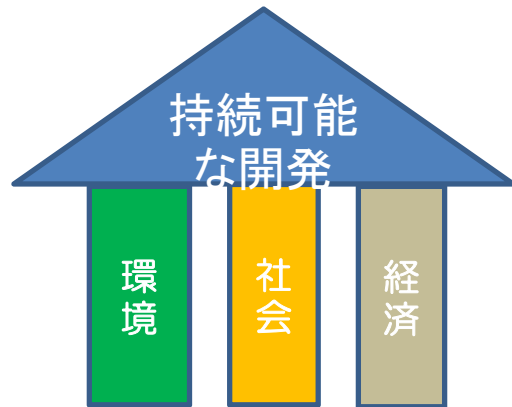


REFERENCE: Steffen, W., W. Broadgate, L. Deutsch, O. Gaffney and C. Ludwig (2015), The Trajectory of the Anthropocene: the Great Acceleration, Submitted to *The Anthropocene Review*.

MAP & DESIGN: Félix Pharand-Deschênes / Globaïa

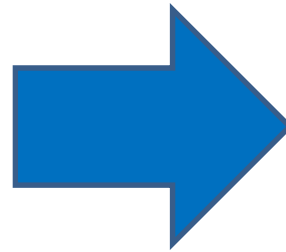
➔ 限りある資源をいかに分け合いながら共存するか？

SDGsは経済・社会・環境の3側面の相互連関を強く認識(インターリンケージ)



将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発

20世紀型
持続可能な開発
(MDGs型)

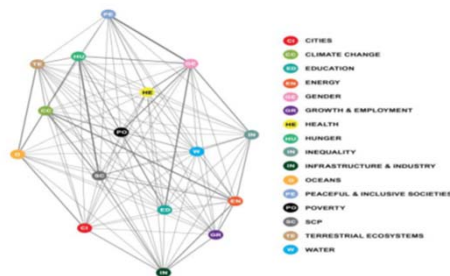


David Griggs et al. 'Sustainable Development Goals for People and Planet.' *Nature* (Vol 495, 21 March 2013).

現在及び将来の世代の人類の繁栄が依存している地球の生命維持システムを保護しつつ、現在の世代の欲求を満足させるような開発

21世紀型
持続可能な開発

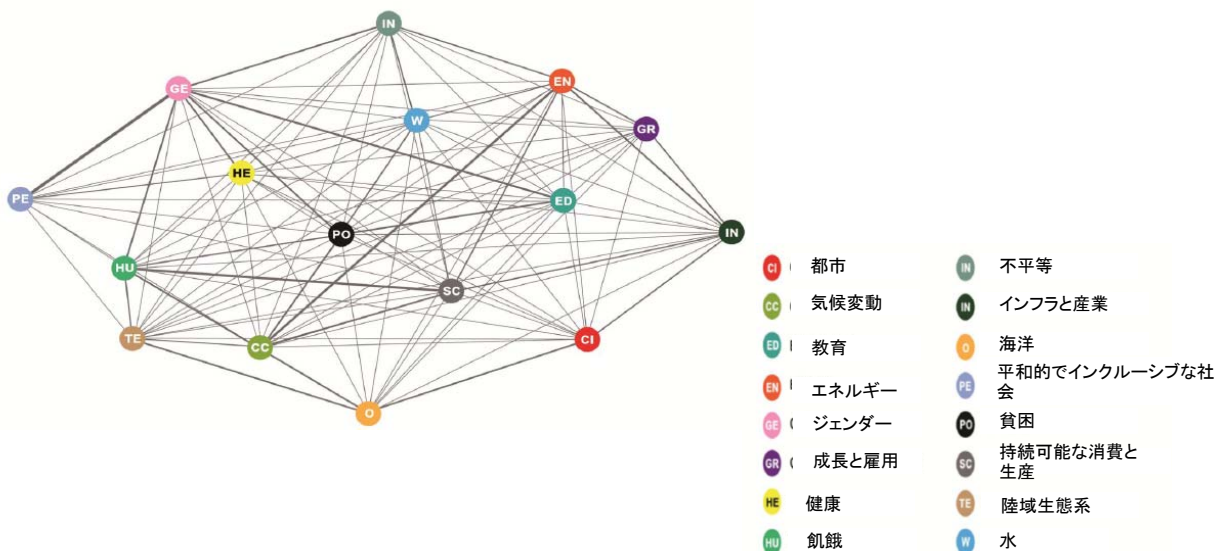
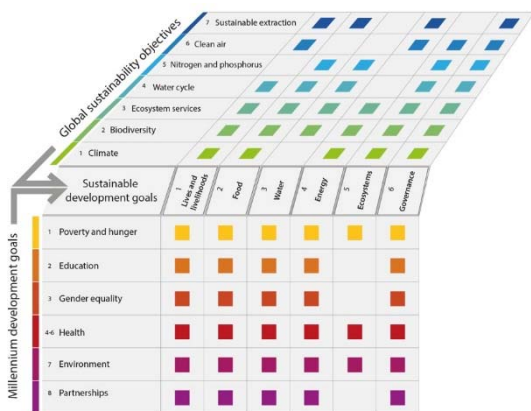
具体的課題解決には多くのSDGsが相互連関



例: 食品問題(食料ロス・食品廃棄物等)とSDGs

ツールとしての持続可能な開発目標

1. 実施や各国別SDGs設定には課題間のリンクが重要 ⇒ **政策の連関を確保するためのチェックリスト**
2. **グローバル・長期的基準から（既存）政策を考えるツール**
3. The Multi-stakeholder Forum on Science Technology and Innovation for the SDGsやHLPFといったメカニズムを通じ、**政策パッケージや技術を世界的に広めるためのツール**



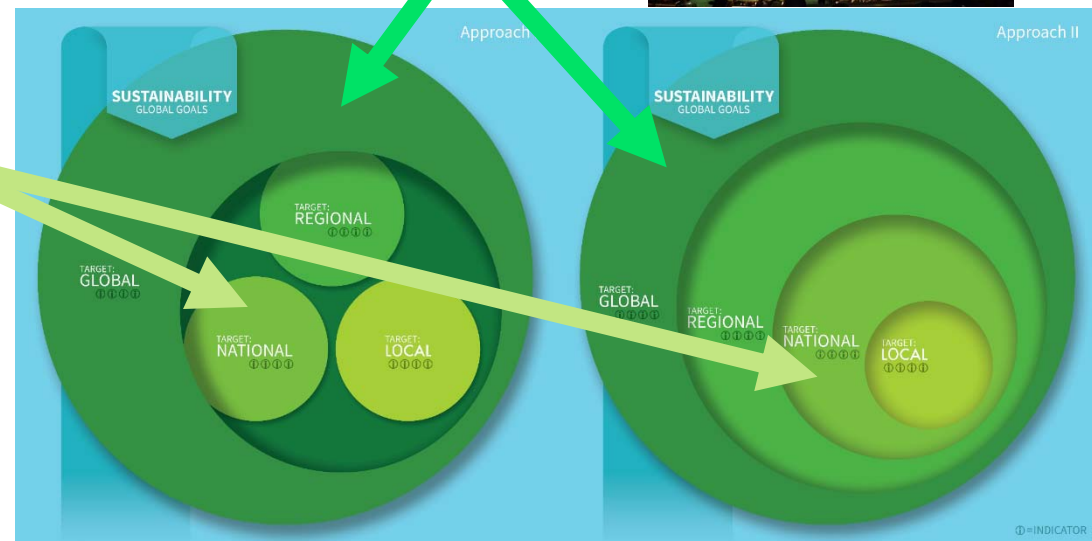
持続可能な開発目標（SDGs）の実施へ向けて - これからの課題 -

SDGs実施にかかるグローバルガバナンスのあり方
SDGsの実施メカニズムはどうなるか？
グローバルと国・ローカルをつなぐメカニズムはどうなるか？



国家・その他のレベルにおけるSDGs
の策定、実施、評価（レビュー）

1. G7各国、先進国、途上国、新興国等のSDGsはどのように設定すればよいか？
2. SDGsの実施メカニズムはどのようにすればよいか？
 - フォーマルな仕組みとインフォーマルな仕組みをどう構築するか？
 - 経済、社会、環境面の統合をどう実現するか？
3. ベストプラクティスをどう広めて大きなうねり（変革）に変えていけばよいか



国連レベルから、地域・国・ローカルレベルのSDGs
策定、実施、評価、そして比較へ



目標設定に起因するガバナンス – 新たなガバナンス戦略

SDGs実施へ向けたガバナンスは
従来のガバナンスを変革する可能性

これ
まで

多国間環境条約 (MEAs: 例 – 気候変動枠組条約)

⇒ ルールに基づくメカニズム

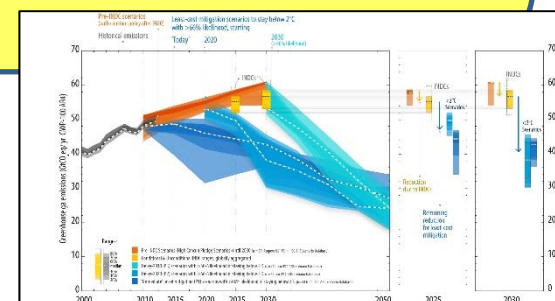


近年は困難に直面 (例えばコペン
ハーゲンCOP15)



できることをプレッジする積み上げ式傾向で
必要なアクションがとれず

- 野心レベルを向上
- 統合的アプローチ推進
- 条約に含まれない課題をハイライト (ex. SCP)



SDGs

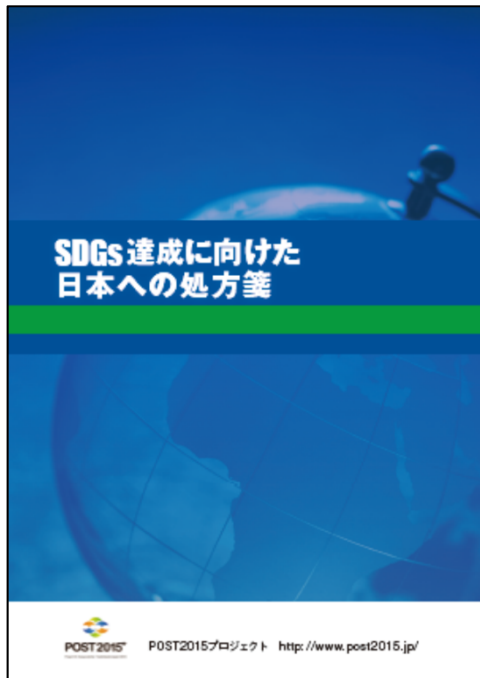
- 目標で野心レベルの提示 (バックキャスティング)
- 実施メカニズム・法的拘束力はなし (各主体が自由につくる)
- モニタリングと評価のみ

先進国での実施に関する研究

日本

オランダ

スウェーデン



- 現状の政策の延長(例えば2020年目標→2030年目標)では達成不可能
 - 統合的実施が不十分
- ⇒先進国での追加的政策は必須

Guest Article #49
Translating the SDGs to High-income Countries: Integration at Last?
 posted on: Thursday, 17 March 2016
 by: Paul Lucas, PBL Netherlands Environmental Assessment Agency, Norichika Kanie, Keio University Graduate School of Media and Governance and UN University Institute for the Advanced Study of Sustainability (IUIS), Nina Wetzi, Stockholm Environment Institute

With the adoption of the 2030 Agenda for Sustainable Development, UN Member States committed to the implementation of a set of universal goals and targets, the Sustainable Development Goals (SDGs). Now, countries must deliver on their commitment. The Stockholm Environment Institute (SEI), Keio University and PBL Netherlands Environmental Assessment Agency have explored what the 2030 Agenda means for domestic policy-making in their respective countries (Sweden, Japan and the Netherlands). How is the new development agenda relevant for these high-income countries and how can they act on it?

A truly universal development agenda

The 2030 Agenda is a new type of development agenda, distinctly different from its predecessor, the Millennium Development Goals (MDGs). For one, it is much more comprehensive. It integrates the economic, social and environmental dimension of sustainable development into its goals and targets, and addresses the systemic barriers to sustainable development. Secondly, it is a universal agenda that applies to all countries, rich and poor, recognizing that development is much more than the eradication of extreme poverty. Universality not only means solidarity between countries (like in the MDGs), but also represents a shared responsibility and action by all.

As a result, the 2030 Agenda shifts the policy space for global development from

SDGs達成に向けた日本への処方箋

目標		国連のSDGsとの関連
貧困と格差社会	処方箋 1.1 公平で質の高い医療・介護・福祉サービスの確保	
	処方箋 1.2 経済的・社会的格差に起因する出生障壁の撤廃	
食料	処方箋 2.1 食料生産における環境負荷の低減	
	処方箋 2.2 農産品の持続可能性情報へのアクセス	
	処方箋 2.3 食料の安定供給と地方再生の実現	
	処方箋 2.4 気候変動への適応と種子・遺伝子の保全	
健康	処方箋 3.1 健康長寿命社会の実現	
	処方箋 3.2 こころの健康の維持と薬物乱用の防止・治療の促進	
	処方箋 3.3 感染症の発生・まん延の防止	
	処方箋 3.4 公平で質の高い医療・介護・福祉サービスの確保	
教育	処方箋 4.1 質の高い教育・訓練への公正なアクセスの推進	
	処方箋 4.2 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進	
	処方箋 4.3 教育および社会におけるインクルージョンの推進	
	処方箋 4.4 地球規模課題解決のための高等教育・研究分野の国際競争力の強化と国際協力の推進	

SDGs達成に向けた日本への処方箋

目標		国連のSDGsとの関連
ジェンダー	処方箋 5.1 男女間の就労機会や賃金格差の解消	
	処方箋 5.2 女性リーダーの活躍の拡大	
	処方箋 5.3 男女間の暴力の撤廃と人権の尊重	
水	処方箋 6.1 あらゆる水リスクへの備えと対応	
	処方箋 6.2 健全な水循環の維持・確保・拡大と水質の改善	
	処方箋 6.3 水リテラシーの向上	
	処方箋 6.4 世界の水問題解決への貢献	
資源・エネルギー	処方箋 7.1 効率的なエネルギー利用	
	処方箋 7.2 再生可能エネルギーの普及拡大	
	処方箋 7.3 エネルギーリテラシーの向上と、エネルギー自治	
	処方箋 7.4 資源生産性の向上	
生物多様性	処方箋 8.1 生物多様性の保全	
ガバナンス	処方箋 9.1 SDGs達成に向けた制度を構築する	
	処方箋 9.2 SDGs達成に向けて資金を動員する	

持続可能な開発目標(SDGs)の主流化に向けた課題

提言1-1. 統合的な司令塔の設置

- ・経済、社会、環境面の政策を統合して実施するための制度、政策全体の司令塔を創設すべき。

提言1-2. SDGs実施戦略・計画の策定

- ・目標達成に向けた実施戦略・計画を策定すべき。
- ・実施戦略・計画は、国内政策と国際協力政策の2つの側面をカバーする。
- ・地方自治体における実施戦略・計画の策定を奨励。

提言1-5. ステークホルダーの行動

- ・新たなイニシアティブをサポートするための政策措置(助成、税制措置、国際標準など)が必要。

SDSN Japan提言より

内閣府に「持続可能な開発目標推進本部」設置(2016年5月20日)
→ 政府開発援助(途上国向け)対策がほとんど
→ 関係省庁の報告会的作り込み

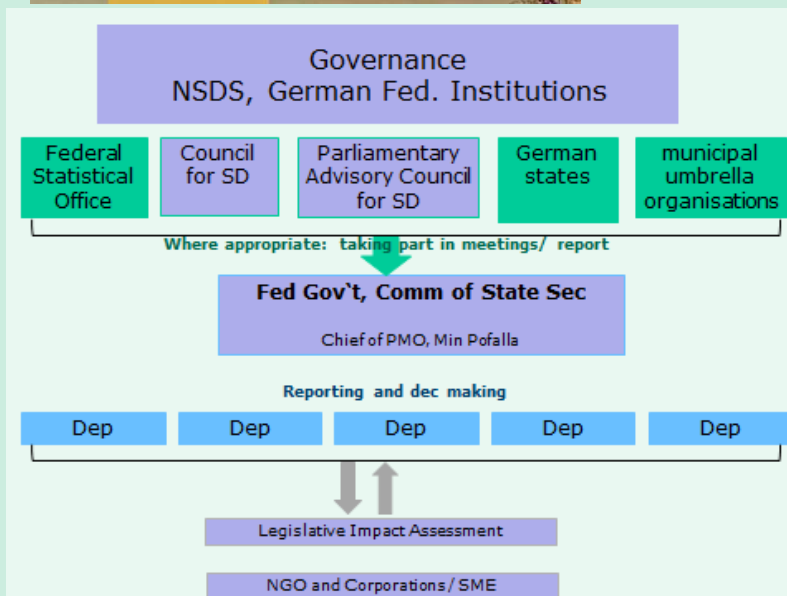


ドイツ持続可能な 開発審議会 (RNE)



- 首相府の元に直接設置(2001年)
- 事務局長以下12人の事務局スタッフ
- 15人の有識者で構成(chaired by Marlehn Thieme and Olaf Tschimpke)
- 任期3年(2/3程度は継続)

- **advise, agenda setting, outreach, facilitating**
(提言だけでなく実施も)
- **informed debate; advanced and shared knowledge**
- **regulative approaches and soft policies**



持続可能な世界へ向けての変革

2030年の
世界のあるべき
姿からバックキャ
スト

指標による評価
で
達成度が比較



1 貧困をなくそう 	2 飢餓をゼロに 	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を実現しよう 	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	8 働きがいも経済成長も 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	10 人や国の不平等をなくそう 	11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を 	14 海の豊かさを守ろう 	15 陸の豊かさも守ろう 	16 平和と公正をすべての人に 	17 パートナリシップで目標を達成しよう 	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 2030年に向けて 世界が合意した 「持続可能な開発目標」です

SDGsの本質は
経済成長戦略